

働きながら安心して子育て

「病児保育」11月1日スタート

入院の必要はないけれど、病気のため保育園や幼稚園に通えず、保護者の仕事等の都合により家庭で保育することができない子どもを、施設で一時的に保育する「病児保育」が11月1日から公立高島総合病院内で始まります。保護者が仕事をしながら安心して子育てができるよう、看護師と保育士が病気で不安な子どもをゆったりと保育します。

保育は月曜日から金曜日の午前8時から午後6時までで、利用できるのは、市内にお住まいの保育園・幼稚園に通園している子どもです。

病児保育を希望される方は事前に利用登録が必要です。申請用紙は、子ども家庭総務課・各支所のほか各保育園、幼稚園にあります（利用申し込みと同時に登録することもできます）。



愛称を付けてください

皆さんに親しんでご利用いただけるように、病児保育室の愛称を募集しています。

▼募集内容
病気の子どもが安心して利用できる、親しみやすい愛称

▼募集期間 10月30日（木）必着

▼応募方法

ハガキ・ファックス・メール（愛称、簡単な説明、住所、氏名、ふりがな、年齢、電話番号を記入してください）で子ども家庭総務課へ。

▼その他

- 採用した愛称は広報たかしまで紹介させていただきます。
- 採用した愛称の著作権は、高島市に帰属しません。
- 採用した愛称を一部補足、手直しする場合があります。

・応募いただいた方の個人情報、この目的以外に使用しません。

■園子ども家庭総務課

〒520-0159 高島市新旭町北畑565

☎(05)81-36

☎(05)514900

✉ jido@city.takashima.shiga.jp



地雷廃絶活動の 高校生リーダー、 カンボジア現地視察

7月27日（日）から31日（木）までの5日間、地雷廃絶活動に取り組む高島市の高校生リーダー5人が、地雷スタディツアーに参加し、地雷被害国であるカンボジアの被害状況や、地雷の除去活動などを学習してきました。

今回のスタディツアーは、来年行われる第2回世界子どもサミットに向けての調査が主な目的で、参加した高校生リーダーたちは、帰国後も研修会を重ね、来年3月21日（土）のサミットを成功させるため熱心な取り組みを行っています。

■青少年課

☎(02)4458

「いころの絆」お父さんお母さんへの手紙

たくさんのお応募

ありがとうございます

中江藤樹先生の生誕400年を記念し、お父さんお母さんにおくる手紙を募集したところ、全国から619通もの応募をいただきました。皆さんありがとうございました。

入賞者は次の方々です。

《一般部（高校生以上）》

最優秀賞

原田 祥司さん（三重県・51歳）

優秀賞

相山 華子さん（東京都・33歳）

水木 亮さん（山梨県・65歳）

佐藤せつ子さん（長崎県・56歳）

佳作

丸山 由香さん（新潟県・46歳）

野間 和子さん（神奈川県・60歳）

坂本ユミ子さん（兵庫県・51歳）

浜野伸一郎さん（兵庫県・56歳）

伊東 静雄さん（静岡県・79歳）

《小中学生の部》

最優秀賞

岡部 達美さん（東京都・中3）

優秀賞

村山麻依子さん（高島市・中3）

北川 優輝さん（高島市・中3）

増田 薫さん（大阪府・小6）

佳作

呉竹 真帆さん（高島市・中1）

中道ちづるさん（高島市・中3）

阿部愛寿早さん（愛媛県・中1）

北村 真彩さん（高島市・小6）

坪田 郁穂さん（高島市・小5）

（※年齢・学年は応募時）

入賞作品は、広報たかしま11月1日号から、順次ご紹介する予定です。なお、楽しみにも！

■図政策調整課

☎(05)81-14

ミシガン州友好親善使節団帰国報告

滋賀県と姉妹都市提携を結んでいるアメリカ合衆国ミシガン州へ、友好親善使節団として県民50人が、8月19日（火）から27日（水）までの日程で訪問されました。ペトスキー市はミシガン州北部にある人口約6,000人のまちで、旧マキノ町と1976年に姉妹都市提携を結んで以来、滋賀県が隔年で実施している相互交流事業以外にも、町と市の中学生が相互訪問をするなどの交流が続けてきました。今回、

一市の家庭でホームステイされ、生活体験を通じて、アメリカの社会・文化を理解するとともに、友好関係を深められました。

訪問中には、ペトスキー市長との交流パーティが行われ、両市の親書と記念品の交換がされました。この交流をひとつのきっかけに、多くの市民の方々とこの交流の輪がさらに広がっていくことを期待しています。

■図政策調整課 ☎(05)81-14

